

調査結果の概要

■ 平成29年度の成果

- 過去の気象(降水量、積雪深等)、地下水位、ダム流入量、河川流量から富山県内の地下水・河川等の現況及び相互の関係性を把握した。(例. 降水量とダム流入量の関係(下図参照)、河川流量増加時期(後述)の確認等)

■ 明らかとなった課題

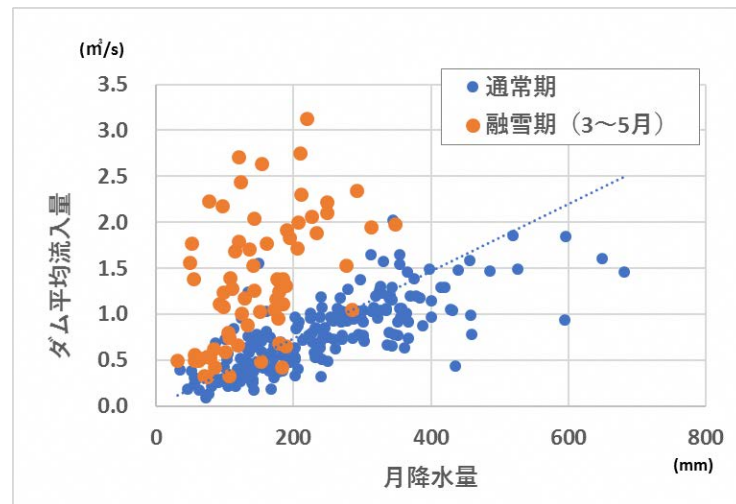
- 地下水シミュレーションに用いる地下構造のデータ取得状況等を確認し、地下水調査の対象領域を選定する。
- 特に都市部の地下水位は、消雪用水等の社会的要因の影響に留意する。
- 同じ県内であっても、河川により上流の主な融雪時期が異なるため、河川流量のピーク時期にずれが生じることに留意する。

■ 平成30年度の調査計画

- 積雪融雪モデル及び地下水流動解析モデルを用いて、現在及び将来の地下水位や地下水賦存量を計算する。
- 計算結果及び既存資料から地下水位の変動要因を整理する。
- 地下水位への将来影響に対する適応策の検討を行う。



調査対象地域(富山県内全域)及び主な河川
(日本気象協会作成)



月降水量とダム平均流入量との関係

期間: 1993年1月～2015年12月
月降水量はアメダス南砺高宮、
ダム平均流入量は城端ダムのデータを利用
日本気象協会作成